



埋文だより

第19号

平成11年3月1日発行

「ミルクストーン」って何?!



発見された礫群

前原遺跡

《所在地：始良郡福山町佳例川》

前原遺跡は、福山町北西部の標高約390mのシラス台地上にあります。発掘調査は、東九州自動車道建設工事に伴い、平成10年5月から10月まで行いました。

写真は、約2万3千～2万4千年前(後期旧石器時代)の「礫群」と呼ばれる遺構(昔の人の生活跡)です。礫群は、こぶし大の礫が直径約30cm・深さ約15cmの穴に10数個ほど詰められており、周辺には礫が散らばった状態で出土しました。遺跡からは、同様の遺構が10か所確認されています。礫群の用途は詳しく解っていませんが、今回炭の破片が大量に見つかっていることなどから火を使った調理場跡の可能性も考えられます。これとよく似た外国の例では、穴の中に動物の皮などを敷き、水と熱した礫を入れて煮炊きをしたと思われる『ミルクストーン』という遺構も発見されています。

まだ土器のない時代に、昔の人はいろいろと工夫して生活していたのでしょう。

目次

- ・ミルクストーンって何?! .. 1
- ・発掘遺跡紹介(18)
- ・本土最南の古瀬「弥次ヶ湯古墳」 .. 2
- ・堂平窯跡移設/楠元遺跡 .. 3
- ・農業センター遺跡群 .. 4
- ・平成10年度の発掘成果一覧表 .. 5
- ・防火・防災訓練 .. 6

鹿児島県立埋蔵文化財センターの見学は、
日曜日・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、
入館料は無料です。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

本土最南端の古墳！

やじがゆ
弥次ヶ湯古墳 《所在地：指宿市》



弥次ヶ湯古墳の検出状況

弥次ヶ湯古墳は、JR指宿駅から北西に約2キロ離れた、山裾から海岸に向けて緩やかに傾斜する海拔6m前後の扇状地上にあります。

古墳は、7世紀後半ごろの開聞岳の火山灰が、洪水で流れてきて積もった層の下から、全体の約1/2が発見されました。古墳の上の部分はすでに一部削られていましたが、調査区の外側の部分について地下レーダーを使って調べたところ、調査区の外側にも古墳の半分が残っていることがわかりました。弥次ヶ湯古墳は、円墳と呼ばれる種類の古墳で、直径約18m、残っている墳丘の高さは最大で約1.3mあります。全体の形は、ちょうどお皿にのったプリンようです。

墳丘の周囲には、幅約2m、深さ約40～60cmの「周溝」と呼ばれる境界のための溝が巡っていました。周溝の中からは、「成川式土器」と呼ばれる古墳時代の土器が破片も含めて約800点出土しました。また、古墳の断面の地層の様子から、古墳が崩れにくいように粘土質の土を少しずつ積み上げて丁寧に作られているこ

とがわかりました。

遺体が埋葬された場所は、残念ながら発見されませんでした。調査区の外側にあるか、あるいは、すでに削られてしまった可能性の2つが考えられます。

薩摩半島は、これまで古墳が見つかっていなかったことから、「古墳の空白地帯」と呼ばれていました。しかし、今回の発見で日本の古墳分布圏がこれまでより広がることがわかり、弥次ヶ湯古墳は日本最南端の古墳となりました。（指宿市教育委員会）



周溝内の出土土器

ど びら かま あと 堂平窯跡 移設保存へ

《所在地：東市来町》



移設作業風景

堂平窯跡の調査成果については先の号で紹介したとおりですが、堂平窯は、今回東市来町や美山薩摩焼振興会の保存要望を受けて建設省が移設保存することになりました。

移設地は、『美山』にあること、同じような傾斜地が確保できること、見学者が見学しやすいことなどを考えて東市来町が提供した美山陶芸館の裏手にある公園が選ばれました。1月下旬から移設地の整地と、窯跡の切り取りが始まりました。窯跡は30mを越える長さがあるため、移動しやすいようにウレタンなどで固定していくつかに分割し運びだしました。移設した窯跡は、元の位置と同じ傾斜角で固定し、耕作や調査などによって欠損している部分を修復・復元します。3月下旬頃には元の状態に復元される予定です。

くすもと

楠元遺跡（新幹線ルート）で出土した大木

《所在地：川内市》

楠元遺跡は、川内市百次町の水田地帯にあり、新幹線の建設に伴う確認調査を平成10年11月から12月にかけて行いました。

調査は、1m以上掘り下げると水が湧いてきて難行しましたが、長さ5m30cm、太さ50cmの大木や縄文土器片などが発見されています。

大木が使われた時代は不明ですが、全体が焼けていて、幹の一部を四角に加工したような跡もありました。他にも青いままのドングリや木の葉などもあり、これは水田の下で常に水の中であって、空気に触れなかったことで腐らなかったものと思われます。

本県では、湿地帯の発掘調査例はあまりないので、今後の調査でどのようなものが新たに発見されるか楽しみです。



発見された大木や木の葉

縄文時代晩期の道/絵画土器

農業センター遺跡群 《所在地：日置郡金峰町・吹上町》

たて いし が はら 建石ヶ原遺跡

建石ヶ原遺跡では、幅約3m・深さ30cmの浅い窪みが、130mにわたって検出されました。最も深い部分には、灰色をした土の固まりが筋状に堆積していました。これは、開聞岳が噴火したときの「灰ゴラ」と呼ばれる火山灰です。灰ゴラは、縄文時代晩期後半から弥生時代初頭（約2400年前）に噴出したと考えられています。したがって、この筋状の窪みは、縄文時代晩期後半の道跡であると考えられます。上野原遺跡などで発見された縄文時代早期前葉の道跡が自然地形を利用した谷筋にあるのに対し、建石ヶ原遺跡の道跡は台地の中央部を掘り窪めて通っています。

九州内では、これほど古く大規模な道跡が発見された例はありません。



縄文時代晩期の道跡



竪穴式住居跡



絵画土器

す わ まえ 諏訪前遺跡

諏訪前遺跡では、弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての竪穴式住居跡から、甕・壺などの破片がたくさん出土しましたが、その中に鋭いヘラのような道具による力強い線で、絵のようなものが描かれている土器破片がありました。

これとよく似たものが大阪府池上遺跡や船橋遺跡から出土していますが、これらは中国の空想上の動物である『龍』を表しているのではないかと考えられています。国立歴史民族博物館の春成秀爾先生は、『龍』は中国からもたらされた鏡（佐賀県桜馬場遺跡出土の方格規矩鏡等）に描かれていますが、そのような絵を真似て描いたのではないかと考えておられます（註）。

（註） 春成秀爾「絵画から記号へ」国立歴史民俗博物館研究報告第35集 1991年

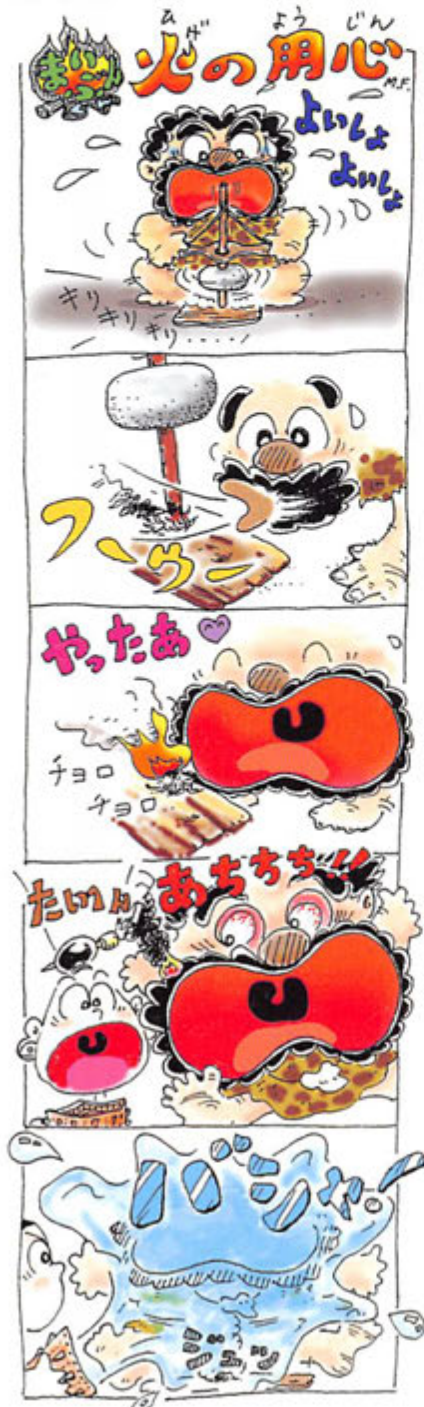
平成10年度の主な発掘成果！

遺跡名	所在地	調査期間	発掘の成果
農業センター遺跡群 諏訪前遺跡	金峰町	H10.4.20 ～ H11.3.31	・縄文晩期の管玉や土器など17000点 ・弥生から古墳時代にかけての竪穴式住居跡3基や絵画土器、石包丁など
農業センター遺跡群 建石ヶ原遺跡	吹上町	H10.8.1 ～ H11.3.31	・縄文時代晩期の道や土器など ・平安から鎌倉にかけての方形周溝墓 ・時代不詳の平行する直線的な道と溝
持鉢松遺跡	金峰町	H10.10.12 ～ H11.3.31	・古代の掘立柱建物跡5棟、土師器、須恵器、焼塩土器など ・中世の土師器・杯の埋納土坑、刻書土器
瀬戸頭A遺跡	伊集院町	H10.5.6 ～ H10.9.18	・縄文時代早期の土器、石器、軽石製品？ *石鐵の製品や未製品が大量に出土、石鐵の制作跡と思われる。
魚見ヶ原跡	鹿児島市	H11.1.6～ H11.3.31	・弥生時代の竪穴式住居跡4軒や土坑、ピット、多数の土器、石器、鉄器、木の実の炭化物など
三角山I遺跡	中種子町	H10.5.6 ～ H10.9.24	・縄文時代草創期の隆帯文土器、磨製石鐵や打製石鐵 ・縄文時代早期の集石5基、土器、石器
桐木遺跡	末吉町	H10.5.6～ H11.3.31	・縄文時代草創期の隆起線文土器、石器、集石16基 ・縄文時代早期・中期・晩期の土器や石器
城ヶ尾遺跡	福山町	H10.5.6 ～ H11.3.31	・旧石器時代の礫群、石器 ・縄文時代早期の土器、石器 *塞ノ神式壺形土器、深鉢形土器の完全な形での出土は初めて ・古墳時代の竪穴式住居跡4基、土器
前原遺跡	福山町	H10.5.6 ～ H10.10.31	・旧石器時代の集石（ミルクストーン？）、石器 ・縄文時代早期の土器、石器 ・縄文時代後～晩期の陥し穴、土器、石器
市ノ原遺跡	東市来町	H10.5.6 ～ H11.3.31	・縄文時代早期～後期の土器、石器 ・弥生時代の竪穴式住居跡5基や土器 ・古墳時代の竪穴式住居跡3基や土器 ・平安の掘立柱建物跡や土師器、須恵器など
向柵城跡ほか 堂園平遺跡	東市来町	H10.5.7 ～ H11.1.31	・縄文時代早期～晩期の土器、石器 ・古代の土師器、須恵器など *古代に土石流災害に見舞われた跡がある
堂平窯跡	東市来町	H10.8.4～ H10.12.24	・江戸時代の苗代川焼初期の窯跡や不良品など捨てた物原 *移設保存工事中。黒薩摩、白薩摩、瓦（鶴丸城で使用）
出水貝塚	出水市	H10.9.16 ～ H10.10.9	・縄文時代早期の集石、土器、石器、骨など ・中世陶器のカムイヤキ片（徳之島産） *カムイヤキ片はこれまでで最も北の出土例
終原貝塚	垂水市	H9.6.2～ H10.7.31	・縄文時代後期～晩期初頭に作られた貝塚。人骨5体、大量の動物や魚の骨、土器、石器、骨格器、土偶、岩偶など
弥次ヶ湯古墳	指宿市	H10.7.26～ H11.2.15	・古墳時代の円墳や土器など *これまで確認された中で最も南にある古墳
白檉野遺跡	金峰町	H10.12.7～ H11.1.20	・平安時代の骨壺、火葬人骨、墨書土器など
飯盛山古墳	志布志町	H10.10.19～ H11.2.3	・前方後円墳、敷石、埴輪の破片など
岡崎15号墳	串良町	H11.2.2～	・円墳、箱式石棺、勾玉（ヒスイ製）、管玉、革紐で綴じた鏡（県内初）、兜など

上野原遺跡防火・防災訓練

1月26日は文化財防火デーです。昭和24年に法隆寺金堂が焼失したのをきっかけに、文化財を火災等の災害から守ろうという主旨で、制定されました。

当埋蔵文化財センターでも、昨年6月に上野原遺跡出土品が重要文化財に指定され、また本年1月には上野原遺跡が国の史跡に指定されたことから、これまで以上に防火・防災に気をつけようということで、センター開所以来初めて防火・防災訓練を実施しました。



防火防災訓練の様子 (上:埋文センター,下:上野原遺跡)

当日センターでは、始良郡西部消防組合始良分遣所の指導のもと、重要文化財の緊急搬出の他、消火栓・排煙窓等の消防施設の実施訓練を行ったほか、作業員や見学客の避難・誘導訓練を実施しました。

上野原遺跡復元公開区では、国分地区消防組合中央消防署の指導のもと、職員・作業員・ボランティアの他、一般の見学者の皆さんの協力も得て、バケツリレーや消火器での初期消火訓練のほか、見学客の避難誘導・消火器の取扱い等の訓練を実施しました。

今後一層防火・防災に努めたいと思います。

埋文だより 第19号

発行日：平成11年3月1日

編集・発行

鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-5652

鹿児島県始良郡始良町平松6252

TEL 0995-65-8787

FAX 0995-65-8117